令和４年度第３回神奈川県ボランタリー活動推進基金審査会（概要）

日時　令和４年 11 月 30 日（水）13：30～18：00
場所　かながわ県民センター11 階 コミカレ講義室２

■　開会

（かながわ県民活動サポートセンター副所長から本日の予定を説明）
○　委員８名での開催。
○　会議の流れを説明
13 時 30 分～15 時 00 分　事前確認
15 時 10 分～16 時 50 分　令和５年度協働事業負担金（継続）のプレゼン審査
17 時 00 分～18 時 00 分　プレゼン審査に対する選考
18 時 00 分　　閉会

（審査会長より開会の宣言）
○　令和４年度第３回神奈川県ボランタリー活動推進基金審査会を開会する。
○　本日の会議は、率直な意見交換の場を確保し、公平な審査をする必要があるため、神奈川県情報公開条例第 25 条第１項第１号に該当し、非公開とする。
　ただし、プレゼンテーション審査は公開とする。

■　審議事項　令和５年度協働事業負担金（継続事業）の協議対象事業選考

（基金事業課長から以下について説明）
○　協働事業負担金の応募状況（資料１）
○　来年度の協働事業負担金に係る予算（資料２）
○　審査委員と利害関係のある団体からの提案なし
○　事務局からプレゼン審査対象団体の提案概要及び幹事会での事前調査結果について報告（資料３）

（委員による審議）
○　協働事業負担金への提案事業に係るプレゼンテーション審査における確認事項等について検討した。

（プレゼンテーション審査の実施）
○　協働事業負担金の提案事業に対するプレゼンテーション審査を次のとおり行った。なお、傍聴は会場での参加のみであった。

【フリースクール等学校外の学びの場の必要性の周知を目的とした県域ネットワーク構築事業】

特定非営利活動法人鎌倉あそび基地（以下「鎌倉あそび基地」という。）によるプレゼンテーション実施。

＜質疑＞
（為崎委員）
　プレゼンテーションを聞いて、キミイロとフリースクール Largo の充実が図られている様子が分かった。
　まず、Largo についてだが、協働事業であるので、この成功をモデルとして県域に波及していただくことを期待するのだが、Largo がどのようなモデルになり、今後の県域への波及をどのように考えているか教えてほしい。

（鎌倉あそび基地）
　現在、キミイロのコンテンツの一つとして、フリースクール等連携協議会主催の 32 団体のフリースクールに２か年で取材をして回っている。今年は、15 団体に取材に行った。そこで、当団体の活動紹介、先方の活動について聞くといった意見交換や、お互いの課題を話し合う機会になっている。そういう意味では、キミイロのための取材は、私たちが難しかったことに関してヒントを得る機会にもなっている。当団体は、スタッフが総勢 10 人以上いるが、それぞれが取材に行っており、一人一人のスキルアップにもつながっていて、ありがたいと思っている。

（為崎委員）
　Largo をモデルにするのではなく、色々なところの良さを発信することで他の団体が吸収していくという理解でよいか。

（鎌倉あそび基地）
　当団体のことを伝えるだけでなく、お互いにとってより良い意見交換になっていると思う。

（為崎委員）
　協働事業負担金終了後について質問する。プレゼンテーションの中でクラウドファンディングが順調に進んでいるという話があったが、現在、人件費が多いので、安定的に収入を確保していく仕組みが必要であると思う。協働事業負担金終了後の資金獲得について、rise プロジェクトの中で、どのような検討が進められていて、どのくらい達成可能になっているか進捗状況を教えてほしい。

（鎌倉あそび基地）
　資金獲得については、昨年から、例えば、来年の４月の助成金に応募する、行政と協働事業をするためにこういったことにチャレンジしていこう等、４つにターゲットを絞って、そのための対策や申請書を書いてみるということを始めている。Largo の事業では、ニーズを受けつつ効率化もしていかないといけないと思っており、例えば、終日開けてほしいという子どもの要望もありつつ、それはべったり何かをしないといけないことではなく、居場所として提供すればよかったりする。そのあたりの人の割き方のメリハリも検討しているところである。

（為崎委員）
　将来の道筋として、毎年度、鎌倉市との協働があがってきているが、協働事業負担金終了後の鎌倉市の協働事業で実施していく実現可能性はどのくらいあるか。

（鎌倉あそび基地）
　鎌倉市では、昨年、市民活動条例が制定され、エール事業というものが立ち上がった。これは、基金 21 のミニ版のようなものだが、そこで今まで前例のないことでも協働事業として提案して受かれば実現可能である。私自身、市民活動条例を検討した時の委員でもあるので、内容をしっかりと把握した上で応募できるので、自分では必ず受かるつもりで提案しようと思っている。

（為崎委員）
　協働部署に質問する。事前の質問で、キミイロのサイトの運営を、今後、県から委託する予定はないという回答であったが、協働事業負担金終了後に、県としてキミイロ等のネットワークに期待すること、その運営を継続していくにあたり、県としてどのような協力をしていけるのか教えてほしい。

（子ども教育支援課）
　色んなコンテンツを充実させていただくということで、特に今年度、来年度に向けては、県内の各フリースクールを、Largo というフリースクール自身が担い手となって取材することは、新しいことであるので、まずはこういうことをしていると、県内の各学校等に伝えていきたい。
　各教育委員会にもフリースクールが幅広く様々な活動をしていることを知っていただきたい。そのためにも協働をしているのだが、周知という面で、キミイロは大きな力になっていると思う。行政では中々できない取材やビジュアル的な良さを活かしたもの、多様なイベント等もあったので、そういったところは、フットワークが軽く色んなことを伝えていくチャンスだと思っている。
　キミイロについては、様々な会議で伝えている。学校でもリンクを貼ってくれているところもあり、広がってきている。フリースクール自体は、連携協議会の１団体がそういったことを活発に実施していることを伝えることで、フリースクールと学校、行政の連携強化につながると思う。

（朝倉委員）
　キミイロについて質問する。キミイロの対象者は、幅広いとは思うが、子どもも対象としているのか。

（鎌倉あそび基地）
　子どもに見てもらえるようなコンテンツがまだ充実していないが、子どもも見て、自分だけではないということや、キミイロカラフルというコンテンツでは、子どもたちが学校

外で学んだ学びを発表する場として作っているので、そこを充実させることで、子どもたちが閲覧する可能性を広げていきたいと考えている。

（朝倉委員）
　キミイロのトップページがどちらかというと子ども向けのメッセージになっている。その下にいくつかのボタンがあり、そこが大人向けのメッセージとなっている。そのあたりの整理が必要ではないかと思うが、それについて検討していることはあるのか。

（鎌倉あそび基地）
　今の話を聞いて、対象者を絞っていないか、大人が見ても子どもが見てもといった視点が足りなかった可能性があると思ったので、検討していきたい。

（朝倉委員）
　キミイロのアクセス状況が把握できるようになったということで、分析等をしているか。

（鎌倉あそび基地）
　報告でも少しあげたが、１日の閲覧状況やトップページからどこのページに飛んでいるか等を見ているが、それを見ただけでは自分たちでは掴みきれなかったので、担当者がフィックスの勉強会に参加し、ビジュアル等の課題も含め色々と課題をあげてもらったので、それについて受け止めていきたいと考えている。

（朝倉委員）
　県からは、キミイロの委託はないということだが、協働事業負担金終了後のキミイロの運用をどの程度、団体として対応するつもりか教えてほしい。

（鎌倉あそび基地）
　継続する。県とご一緒できるのであれば、県の仕事もたくさんやりたいが、できないとなるとそこは難しいと思う。

【広域大規模災害に備えた平常時からの行政、社協、NPO 等の連携体制構築】
　災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ（以下「みんかな」という。）によるプレゼンテーション実施。

＜質疑＞
（山岡委員）
　事業は、着実に進められている印象を受けた。来年度、協働事業負担金が終了となるが、ゴールイメージ、成果は、どのように考えているか。すなわち、災害が起こらないと事業の成果が確認できない中で、このネットワークの実行性をどのように担保していくか等、これが成果だということをどのように捉えているか、教えてほしい。

（みんかな）
　災害が起こらないと分からないというところはあるが、当団体の知名度を上げられて、災害時に当団体が何かをするだろうと、目を向けてもらえるようになることをゴールと考えている。それに向け、例えば、昨年度の勉強会では、大学と社会福祉協議会をつなぐ動きができたといった、連携の仲立ちができたという成果も得られている。
　最終年度の時に何ができているかということもあるが、それ以降も続いているかを重視している。先ほどのプレゼンテーションで紹介した、連携訓練といった枠組みや、定期的に実施している会議を、協働事業負担金終了後も継続できるかも成果だと考えている。瞬間にどうというよりかは、それ以降も続いているかを一つの目標としている。

（山岡委員）
　協働事業負担金が終了しても続けていくということで、資金については、プレゼンテーションで休眠預金を活用するとあったが、協働事業終了後の運営体制や県との関係等、令和６年度以降の継続のイメージを教えてほしい。

（みんかな）
　当団体は、もともと３つの団体で構成されている。そのうち、３１１ネットワークは、東日本大震災から一貫して、かながわ県民活動サポートセンターと連携を図ってきた。また、協働事業が始まる前から、共同募金や県社会福祉協議会との連携の形ができていた。県の他の部署とは、協働事業の開始からつながったが、県の災害計画の中にも、中間支援が災害時に活躍するという位置づけられる仕組みを目指していきたいと考えており、それができると、より継続につながるのではないかと考えている。

（山岡委員）
　協働事業を行っている時と同じような形で継続できるという理解でよいか。

（みんかな）
　多少、ウェイトの置き方は変わってくるが、もともとやってきた３１１ネットワークでいうと、日頃の活動とみんかなの活動は、別のものではなく一体のものであるので、今後も続けていきたいと考えている。

（山岡委員）
　現在実施されている会議のメンバーや頻度も変わらないという理解でよいか。

（みんかな）
　当団体としては、そうしたいと考えている。あとは、各協働部署とのこれからの協議になると思う。会議や学習会の頻度は、毎月から隔月になっていくかもしれないが、顔合わせの機会を続けていくことが大事だと考えている。

（為崎委員）
　団体は各協働部署との連携を継続していくつもりだという回答であった。県の協働部署は、連絡共有会議について、今は協働事業ということで、業務という形で関わっていると思うが、協働事業負担金終了後も同じようなスタンスで協力ということは考えているか、代表して危機管理防災課の方に伺いたい。

（危機管理防災課）
　当課としても、協働事業負担金終了後も、みんかなと会議体を継続してやっていきたいと考えている。

（為崎委員）
　開催頻度も今と同じくらいの頻度でも参加可能という理解でよいか。

（危機管理防災課）
　当課としては、大丈夫であると考えている。

（為崎委員）
　先日、会議に出席させていただいた際、今の担当者の方々は、とても積極的だと感じたが、担当者が変わった場合でも、それを引き継いでいく仕組みは考えているのか。

（危機管理防災課）
　当課の考えにはなるが、この事業について、昨年度は別の者が担当をしており、私は、今年度から担当になったが、情報やデータは、しっかりと引き継ぎを受けた上で参加している。今後、担当が変わった場合でも、この事業についての引継資料等を作成し、共有していくので、その点の心配はないと考えている。

（為崎委員）
　プレゼンテーションでＮＰＯ等を対象とした調査をされたという話があった。この調査は、今、結果を読み取られている段階だと思うが、次年度以降の事業展開にどのように反映されていく予定か、教えてほしい。

（みんかな）
　今、レポートがまとまり、先日の会議で報告をしたばかりで、最終稿ではない。この扱いについても、もう少し協議が必要だと考えている。
　ただ、タイミングとして、災害時の備えが大事で、備えの部分についても情報がほしいという団体もいるので、災害時の備えについての学習会等、ＮＰＯのニーズに則した情報提供が必要になってくると考えている。

（為崎委員）
　災害が起きた時に何かをしたいという団体が多くても、実際に起きた時にどのように動

いたらいいか等、実効性の確保について、貴団体としてどのようにバックアップしていく予定か。

（みんかな）
　来月、災害時が起こった時、子どもたちの居場所をどのように確保していくかというテーマで勉強会を予定している。そういった形を繰り返しつつ、当団体に問合せてもらえると、つなぐべきところにつなげる団体になるべくして活動をしている。３１１ネットワークは、もともと防災をミッションにしている団体であるので、そのへんのノウハウの蓄積があるので、やりたい人にやりたいことをしてもらい、支援が必要な場所に届くように中継ぎをするのが当団体の仕事だと考えている。

（為崎委員）
　民間支援団体マトリクスを作られるということだが、実際に何か起きた時にそのマトリクスどおり動いていくか等をどのように検証するのか。情報のアップデートも必要だと思うが、実際に役立つマトリクスにどのように仕立てていくのか。

（みんかな）
　災害が起きた時は、状況調査が必要かと思う。さらには、市域に行って、態勢が立て直ったところ、長いスパンで活動をやっていただけるところにお願いする。情報を提供しつつも皆様からの情報をいただきながら、調査をかけられるかは、しばらく分からないが、アップデートはしていきたいと考えている。

（為崎委員）
　県民センターに貴団体がテーブルを出して、みんなに集まってもらうということであったが、県民センターが被災した場合の拠点については、どこか想定しているか。

（みんかな）
　もし、県民センターが被災した場合でも、今は、オンラインも使えたり、藤沢を拠点にして活動しているメンバーもいたりする。それこそネットワークを駆使して、場所は用意できると考えている。

【非対面でも実施可能な児童養護施設への就労支援普及事業】
　フェアスタートサポート（以下「フェアスタート」という。）によるプレゼンテーション実施。

＜質疑＞
（峯尾委員）
　報告にもあったが、適性検査の貸出しキットやキャリアアップ教材については、問題ないと思っている。
　一番気になるのは、フィードバックである。人材育成も進んでいるということではある

が、ご自身も負荷がかかっておられるということで、そこについて確認したい。
　この事業を神奈川モデルとして、他の方にも広めていくためには、個人のスキルではなく、人材育成のシステムやカリキュラムが必要かと思うが、その点について、現時点での成果や、どういうことを実施しているのか、教えてほしい。

（フェアスタート）
　その点は、当団体も意識していることである。結論から言うと、強化するという回答になる。
　中身として意識していることは、アナログな方法になるが、普段、対面やオンラインで、私がフィードバックをする際、他の職員にも同席をしてもらって、見て学んでもらいという方法と、これまで私自身も頭の中で考えていたことを言語化していく、このようなパターンの時は、このような説明がよいといったマニュアルを作成し、他の２名も同じようなことができる体制づくりに努めている。

（峯尾委員）
　背中を見てということだけでは、現在は難しいところがあると思うので、ノウハウ的なところは、一緒に見て覚えていく。いわゆるスーパービジョン的なことが必要になってくる。また、それに併せて基礎的なスキルは持っておく必要があると思う。こことここだけは、最低でも持っておかないといけないというスキルがあれば、教えてほしい。

（フェアスタート）
　私自身が意識していることでもあるが、適性検査の内容は大事ではあるが、それをいたずらに信じるようにと言わないようにしている。あくまでも適性検査の結果は、きっかけであり、ここで出た内容は、適性があるかもしれないという程度で考えてもらう。見学や体験に行くといったプロセスを通じて、その適性が本当なのかを確かめてみる、ということを大事にしている。

（峯尾委員）
　子どもたちの主体性を大切にしているという理解でよいか。

（フェアスタート）
　そうである。私たちのキーワードは、本人の自己決定である。それを非常に大切にしているので、どのような情報や機会を提供すれば、本人たちが、主体的に自分たちのキャリアを決定していくことができるか、寄り添うということを大事にしている。

（峯尾委員）
　紹介する職域について、中小企業という表現もあるが、それをもう少し広げていく。例えば、製造・小売り・販売等あるが、農林水産を含め人材不足とも言われている職域への広がりについて、検討、可能性を見つけていくといった取組はあるのか。

（フェアスタート）
全国で見ると、石巻であると、水産系の会社とお付き合いがあり、群馬県であれば、養豚、北海道だと馬等があるが、神奈川県内でそういったバリエーションが広げられているかというと、そこは発展途上であるので、中小企業支援課にも相談しながら広げていく努力をしていきたい。
現状では、製造業、建設業、宿泊、飲食や美容系等、いわゆるよくある職域であり、一次産業がまだ弱いので、これを機に検討していきたい。

（峯尾委員）
この事業を経由して、社会に巣立った子どもたちや、この事業を通じて、子どもたちの可能性を信じる、成長していくといった事例があると思う。
こういった事業を、他の団体でもできるようにする、事例をまとめてみる等、最終年度に向けて成果を形にする、見える化するといったことは考えているのか。

（フェアスタート）
今、作成している動画も分かりやすい一つの成果だと考えている。YouTube 上にも動画はアップしている。場合によっては、この動画を県内以外の施設等にもシェアしていくことも意識したい。
また、来年度からこの事業とは別に計画しているのだが、施設の職員向けの勉強会・研修会を取り入れようかと考えている。色んなベストプラクティス、グッドプラクティスといった、協力していくことが業界としても大事だと感じることがあったので、そういった時にこの事業のエピソードを事例として共有して、キャリア教育等に活用していきたいと考えている。

（中島会長）
当事者の自己決定の視点から考えて、動画にする職業について、現在の課題があれば教えてほしい。

（フェアスタート）
高校卒業後に就職となると、大卒等と比べて選択肢が少なくなってしまうことはあると思っているので、様々な選択肢を見せて、本人たちで決めてもらいたい。ただ、幸い、進学しやすくなっているので、様々な選択肢を見せ、本人たちが就職するか進学するかも考えてもらえるようなアプローチをしていきたい。

（中島会長）
中小企業支援課に質問する。中小企業支援課から見て、この事業が中小企業の利益になる部分はあるのか。

（中小企業支援課）
製造業の表彰事業を、昨年は実施していなかったが、今年は実施している。その関係で

現場に行くと、若い人がいないという声が多くある。そういった時に、フェアスタートサポートの資料等を提供してつながったという事例がある。
　しかし、当課の表彰が製造業だけしかやっていないので、農業や他の職業になると、また別の部署になるかと思う。限界はあるが、できるだけつながる術を見つけていきたい。

（中島会長）
　最終年度であるので、色々と挑戦してほしい。
　神奈川モデルといった時に、児童養護施設での適性検査だけではなく、協働の成果として言えることがあれば教えてほしい。

（フェアスタートサポート）
　キャリア教育が、全国的にまんべんなく不足していると感じている。マッチングが就活というものがスタンダードではなく、神奈川は、前工程に踏み込むことによって、クオリティを高めていく。正直、他県ではないと思うので、まずは神奈川県で、しっかりと浸透させていきたい。

【かながわ乳がん検診向上モデル構築事業】
一般社団法人乳がん予防医学推進協会（以下「乳がん予防医学」という。）によるプレゼンテーション実施。

＜質疑＞
（田中委員）
　この事業は、検診向上に向け、モデルを構築していくことが成果かと思うが、最終的な形としては、プレゼンテーションであったように、県民ニーズの要素を自治体等に取り入れてもらうことなのか、それとも、貴団体が受診できるイベントを増やし、受診者数を上げていくのか、あるいは、他団体がこの要素を使って、受診の機会を多く持って行くのか。どのモデル化をイメージしているのか。

（乳がん予防医学）
　私たちがモデル構築をすることによって、他団体や医療機関が同じようなことを真似して、どの地域でも、神奈川モデルとして実施していくことが、検診受診率の向上につながると思っている。
　私たちだけが実施しても限界があるので、誰でもできるということをゴールとして構築している。

（田中委員）
　費用は、2,000 円以下で計画されているが、元々はもっと金額が高いと思う。どの団体でも 2,000 円以下で実施できるための工夫、要素はあるのか。

（乳がん予防医学）

実際、費用 2,000 円以下で実施するのは不可能である。検診をするにあたり、必ず医療機関が必要となる。この医療機関に、そこの部分を負担していただく、もしくは当団体で集めている寄付、イベント時に啓発グッズを販売することで得る収益を検診に充てることとしている。

（田中委員）
収支予算では、医療機関から業務委託手数料１回 10 万円ということで計上されている。それは、予定どおり徴収できているのか。

（乳がん予防医学）
バス検診で実施している横須賀市以外は、徴収ができている。横須賀市の場合は、人数が少ないため、10 万円には至っていない。また、医療機関に関しては、人数が元々定員に達していなかったので、いただかなかった。
医療機関での受診者を増やしていくということは、課題であると感じている。
収支予算を作成した時にイメージしていたことは、試験受診を行うということでもあった。その分の予算が、横須賀と回せていなかったので、その分で 10 万円という事業委託費を見込むことができなかった。その点が収支予算書と相違があると思う。

（水澤委員）
今年度は、6 か所で事業を実施したが、その事業の成果、これを次年度以降にどのように反映していくのか。プレゼンテーションでも出たが、アンケートから県民ニーズが出たということだが、これをどのように次年度以降に活かしていくかを教えてほしい。

（乳がん予防医学）
全ての検診でアンケートを実施しており、アンケートの回答を自治体と共有する。予約を簡単にという点は、Web 予約を導入しており、これは継続できる。身近に検診ができるようにという点は、ワークプラザで検診したことがすごく身近に感じられたという声等あり、このような実績を自治体と共有し、機会を増やしていく。実績があると自治体も取り組みやすいという意見もいただいているので、次年度以降に活かしていきたい。
県民ニーズの内容についてだが、実施していくと、市民の方々のニーズ、市政の方々のニーズなど様々で、複合的になっているため、１つという答えはない。最近、金曜日の夜間、イベントの中で実施したのだが、受診者の方からは、金曜日の夜にやってもらえてよかった、と言ってもらえた。ここは、私たちが想像していなかったところであったので、毎日、夜間にやればいいのではない、ということに気づかされた。
平塚市で実施した検診では、大きな複合施設で、検診バスとイベント場所が離れていたこともあり、迷子になってしまった方が３人いた。大きな施設では実施してほしくないという方と、逆に、お父さんに子どもを預けて 30 分の間で検診を受けられる方等もいて、様々なニーズがあると分かった。それに合わせながら、色々と企画していきたいと考えている。

（水澤委員）
　既に、他の団体等と協力体制ができていると思うが、乳がん検診等に前向きに取組んでいる企業や、スポーツチームとの連携の可能性は、どのように考えているか。

（乳がん予防医学）
　湘南ベルマーレと協働してイベントを開催したことから波及して、他のサッカーチームからも声がかかったり、企業からも、当団体の取組を見て一緒にやってみたいという声をもらったりしている。

（水澤委員）
　今後の資金調達にも役立てられる、可能性を探れるのではないかと思うので、ぜひ次年度以降に活かしていただきたい。

（中島会長）
　協働事業として考えた時、任意型と対策型の違いや、今年度、両方を実施してみて、来年度に力を入れてみたい方式はどちらか、というのはあるか。

（乳がん予防医学）
　対策型というのは、自治体で 60 歳以上といった制限がかかってくる。対策型を最初からというのは、平塚市は積極的に取り組んでくださったが、横須賀市や鎌倉市は一度、前例を作りたいという回答であったため、市町村が関わらなくても、実施できる任意型で前例を作って、対策型の実施につなげていきたいと考えている。

（中島会長）
　プレゼンテーションで挙げられた県民ニーズというのは、アンケートに回答された方々のもので、アンケートに回答されなかった方々が、本当は対策が必要な人たちかもしれない、という見方もできるが、検診を普及させるために、このニーズからさらに進めて取り組んでいくこと、もしくは取り組んでみたいことはあるのか。

（乳がん予防医学）
　検診だけでなく、波及効果として、啓発イベントにも声をかけてもらってブースを出している。そういったところで声を聞くと、同じようなことを言われる。知らないから行けないため、もっと知らせる場を作ってほしいと言われている。

【支援の隙間で孤立する若年女性のための自立サポート付きシェアハウス事業】
　一般社団法人アマヤドリ（以下「アマヤドリ」という。）によるプレゼンテーション実施。

＜質疑＞
（尹委員）
　会員増を目指して SNS の発信方法を変える、頻度を多くするといったことが挙げられて

いたが、具体的に、新たな対応をどのように考えていて、実行性の見通しはたっているのか教えてほしい。

（アマヤドリ）
広報担当の専任スタッフを仲間に入れることができた。広報の勉強も熱心に取り組んでくれており、順調にフォロワー数も増えている。支援者の方に会った時も、広報を見たと言ってもらえ、評判や反応もよいため、この調子で広報スタッフと一緒に取り組んでいきたいと考えている。

（尹委員）
そのスタッフは、新たに入られた方という認識でよいか。

（アマヤドリ）
元々は、事務を簡易的にやってもらっていたスタッフだが、アマヤドリの活動に心惹かれたということで、今までの仕事にプラスアルファして広報を尽力してくれている。

（尹委員）
実際に会員や寄付等が増えたという事例はあるのか。

（アマヤドリ）
今年度も 10 名程度増えた。クレジットカードでの寄付の場合、年度の更新が切れると退会してしまう方が多いのだが、継続で申請してくれる方もいて、効果はあると思う。

（尹委員）
拠点を置いている市内や県内の企業や団体を訪問して関係性を作っていく。つまり、足を運んで会員の獲得を図る、ということはやっているか、もしくは、検討はしているか。

（アマヤドリ）
非常に重要だと思っている。地元をよく知っている方に、地元の企業の方を紹介してもらい、挨拶させてもらうということを地道に始めているので、もっと頑張りたいと思う。

（尹委員）
今、借りている拠点は、２年契約と聞いた。例えば、持ち主の意向や状況に変化があれば、今と同じ条件が将来的に担保されるとは限らない、また、シェアハウスという性質上、拠点がないといけない事業であるため、足元を固める必要があると思う。
この点について、どのような対策を考えているのか、また、長期的な目標にはなると思うが、どこか物件を所有しよう、といったことも考えているか。

（アマヤドリ）
私たちも非常に懸念していたところである。大家さんと話をしたところ、現在、順調で

あるため、次の契約は２年ではなく、更新料なしの６年と言っていただけたので、この間に対策を考えていきたいと思っている。
　物件の所有については考えている。他の場所にはなると思うが、協働部署に相談し、協力していただきながら、空き家の活用等で、所有につながればと思っている。

（尹委員）
　契約６年となると何年までになるか。

（アマヤドリ）
　令和４年の３月で更新になるため、令和 11 年３月まで更新料なく継続となった。

（山岡委員）
　支援が必要な若年女性と言っても、様々な状況があると思う。これまで事業を実施してきた中で、貴団体が、このシェアハウスという仕組みを使って、支援する方に共通する性質や特徴が、何か見えてきたか。プレゼンテーションで、現在はキャパに余裕があると話はあったが、これから知名度が上がり、実績もでてくると、多くの方から問合せがあると思う。それらに、全て対応することは難しいと思うので、支援対象を絞り込む必要もあるだろう。そうしたことを想定したうえで、貴団体が得意とする支援対象は、どのような方かということは掴んでいるか。

（アマヤドリ）
　様々な背景があるが、全員に共通しているのは、何らかの精神疾患の診断を受けているか、受診できていないだけで、病院に行くと、治療が必要であるという方々である。
　様々な団体や施設がある中で、当団体の特徴は、自己選択と自己決定である。自分で決めて、自分で実行していく、していきたい段階の方が、当シェアハウスにマッチすると考えている。

（山岡委員）
　これから事業を進めていく中で、見えてくることもあると思うので、ぜひそうしたことも意識しつつ進めていただきたい。
　他方で、今後、相談に来ても、いっぱいだから対応できない、貴団体として対応することは難しい方、といった状況も出てくると思う。そういった方々を、別の支援先につないでいくためのつながりや具体的な方策は準備されているか。

（アマヤドリ）
　今まで 60 件の入居相談があった。そのうち、当シェアハウスに入居したのは 20 数件程で、本入居まで進んだのが 10 数名である。当団体ありきではなく、当シェアハウスの特徴や、他の団体・施設の特徴を把握してもらった上で、本人たちが選ぶということを全員に行っている。本人が、当シェアハウスを選んだ場合は、当シェアハウスに入居してもらう。シェアハウス、シェルター、一人暮らし、グループホーム等との連携実績もある。

（山岡委員）
　貴団体が選択肢を示すだけのレベルか、それとも他の団体や施設につなぐまでのサポートなのか。

（アマヤドリ）
　状況によるが、ほとんどがつなぐまでサポートしている。施設等の見学や物件の内見も一緒に行っている。１人で行きたいという方もまれにはいるが、希望があれば同行している。

（山岡委員）
　協働部署に質問したい。協働部署としては、この事業を高く評価しているということが資料から分かるが、この事業に対する期待と関わり、協働事業終了後の支援についてどのようなことが考えられるか、教えてほしい。

（共生推進本部室）
　県及び女性支援の各市町村の担当部署とも適切に連携していただいており、協働事業としても実績が伸び、順調に進んでいると思っている。
　協働事業以外でも、県の交付金を活用した事業や、女性支援事業における別の協働事業も、来年度に向けて調整をしているので、今後も協働事業やそれ以外も含め、連携を強めていきたいと考えている。

（住宅計画課）
　空き家の担当をしている。先ほど回答でも出たが、空き家を活用に向け、県内市町村にもこのような団体があることを会議等で周知をしている。また、指定法人にもなったので、居住支援協議会でまだ紹介はできていないが、同じような活動をしている団体とつながりができ、支援していけたらと考えている。

【活動団体をつなぐことでできる地域協働の活性化】
　ＮＰＯ法人街カフェ大倉山ミエル（以下「ミエル」という。）によるプレゼンテーション実施

＜質疑＞
（朝倉委員）
　本業の活動はしっかりやられており、自信をお持ちだということは分かった。モデル化の事業２、３について、質問したい。ネットワークの見える化が一番かと思っていたが、本当のモデル化は何か、を説明してほしい。

（ミエル）
　当団体も様々な研修や見学に呼んでもらうことが多く、最近でいうと、東北の復興支援

のコミュニティづくりや、南区、旭区の支援等に入っている。その時に一番大事にしていることは、私たちの実践を見てもらい、それを説明する、事例をたくさん見ていただく。そのためにHPがある。小さい居場所の活動をどのように作っていくのかを丁寧に伝えていくこを一番考えている。事例を見せ、語りながらになるので、それをモデル化していくことを、来年度の課題にしていきたいと思っている。ただ、居場所をつくっていきたいというニーズを強く感じているので、伝えていきたいと考えている。

（朝倉委員）
プロセスを見せたいということか。

（ミエル）
事例を見ていただくということは、プロセスであるので、今でいうところの場所に愛着を持ってもらうことが非常に大事だと実感しているので、今回の東北でのコミュニティ支援に関しても、もう一度その場所に、どう愛着を持ってもらうか、というところを一緒に考えたいと思っている。東北の方に事前にヒアリングをしたのだが、そこで出てくる課題と、私たちが地域で持っている課題は、すごく重なるものがあり、色々なところに、私たちがやっていることの事例を見せることができると考えている。

（朝倉委員）
参加者のモチベーションを上げるための何かしらの工夫はあるのか。

（ミエル）
事業３のつながる研修に関しては、OJT というところで一緒に活動していただく。皆さんに一番喜ばれるのは、畑を一緒にやりながら、そこでご飯を食べ、プロセスの話をするということである。

（朝倉委員）
提案書で大磯と座間の話が出てくる。これは、新しい話で、フォーカスされたポイントはあるのか。

（ミエル）
大磯町の案件に関しては、発意された方が、畑や空き家、果樹園といった様々なフィールドを持っていて、近くの星槎大学や田園調布大学といった大学との連携をされており、フィールドの面白さと、発意された方の熱意もある。

（尹委員）
予算書を見ると、人件費が占める割合が非常に高い。この状態は、今後の自立を考えた時、好ましい状況とは思わないのだが、この現状をどう受け止め、どのように考えているか。

（ミエル）
　先ほど、色々な問合せが増えてきているという話をしたが、例えば、来週も企業の部課長クラスの方が見学に来られる。企業からこういった場所に関わっていけないか、企業の中で、こういった居場所を考えていけないかというニーズが出ていることを感じている。
　私たちは、今回のように、様々なプロセスや事例を重ねているので、それは次の事業につなげていけるものだと思う。

（尹委員）
　質問と答えが噛み合っていないように思うのだが。

（ミエル）
　新しく日本財団の、子ども第三の居場所等の応募も考えている。
　基本的に、今回の事業で、モデル化ということが重点的にやっており、モデル化は、３年間である程度終了するので、再来年に向けて人工を減らしやっていけると考えている。
　事業そのものを大きくすることは考えておらず、セッターや横倉や横浜カフェネットワーク等に元々所属しているので、そちらでの活動と、当団体の活動を並行させながら、今まで基金でやってきた研修事業等はやっていけると考えている。もちろん、今後も他の助成金の申請や会員からの寄付等ももらうつもりだが、費用は、抑えていけると思っている。

（尹委員）
　再来年以降は自走して実施していける、という見込みがあるという理解でよいか。

（ミエル）
　来年にこれをモデル化し、それによってアーカイブができたものを持って、自走していきたいと考えている。

（尹委員）
　アーカイブの有償は、検討しているか。

（ミエル）
　HP の中で鍵をかけているページがある。そこを見るためには、有料にするということは考えている。

（尹委員）
　県との協働という点が弱いように見えるが、今後の展開についてどのように考えているか、団体と協働部署にお聞きしたい。

（ミエル）
　先ほども空き家活用の話があったが、県の中でも色々な事業があり、私も少し関わったこともある。そういったところで一緒にやれることはあると思っている。

（いのち未来戦略本部室）
　当グループでもネットワークがあり、ほぼ毎回、参加してもらっている。そのネットワークも、行政や大学、NPO、企業等、様々な方に入ってもらっているので、そういったネットワークでプレゼンをしていただき、連携先を探してもらうのもよいかと考えている。

（委員による審議）
○　協働事業負担金への提案事業に係るプレゼンテーション審査の結果を踏まえて審議を行い、協議対象事業を選考した。
　※　選考結果は後日団体に通知。

■　閉会

（審査会長より閉会の宣言）
○　令和４年度第３回神奈川県ボランタリー活動推進基金審査会を閉会する。

（以上）